

主要産地における令和4年産水稲の生育状況等について 第15報 (令和4年9月12日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和4年9月12日)

道府県	区分	生育状況等	技術・防除・気象等関連公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
		育苗・田植進行状況・生育状況等(自治体等公表資料の抜粋) 平年に対する遅速等		
北海道	(生育・作柄)	<p>【生育状況(9月1日現在)】 (全道)生育は平年並に進んでいる。(北海道農政部 9月6日付) (空知)生育は平年並である。(空知総合振興局 9月6日付) (石狩)登熟は順調。(石狩振興局 9月6日付) (後志)遅速は平2日。(後志総合振興局 9月6日付) (胆振)生育は平年並。(胆振総合振興局 9月6日付) (日高)登熟は平年並である。(日高振興局 9月6日付) (渡島)生育は平年並に進んでいる。(渡島総合振興局 9月6日付) (檜山)生育は概ね平年並で推移。(檜山振興局 9月6日付) (上川)生育は平年並に推移している(水稲うるち)。生育は平年よりやや早く推移している(水稲もち)。 (上川総合振興局 9月6日付) (留萌)生育は平年並に進んでいる。(留萌振興局 9月6日付) (オホーツク)穂数や稈長は平年並であるが、登熟はやや遅れている。(オホーツク総合振興局 9月6日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し9月～11月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p>	<p>・「ななつぼし」及び「ゆめひかり」を中心とする品種構成となっており、主要品種に大きな変化はみられない。 (農林水産省 3月16日) (出典資料は以下同じ)</p>
青森	(生育・作柄)	<p>【8月31日現在の登熟歩合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つがるロマン」は47.8%で平年を13.9ポイント下回った。 ・「青天の霹靂」は64.1%で平年を4.9ポイント下回った。 ・「まっしぐら」は66.8%で平年を2.9ポイント下回った。 ・「はれわたたり」は44.6%であった。 <p>(青森県 9月1日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや不良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米^{かみ}の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、収量水準の低い「まっしぐら」が増加傾向にあり、令和4年並同様の傾向になるものと考えられる。</p>
岩手	(生育・作柄)	<p>・出穂盛期は県全体で平年並の8月5日頃となったが、6月上旬の低温による生育停滞が顕著であった圃場においては出穂がやや遅れる傾向がみられ、北上川下流では終期が平年より2日程度遅くなった。(岩手県 8月25日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米^{かみ}の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっており、県のオリジナル品種である「銀河のしずく」が、耐寒性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	(生育・作柄)	<p>(亶理)「ひとめぼれ」 1㎡当たり穂数は目安(410～460本)の範囲内、1穂数はやや多く(60～70粒)、1㎡当たり籾数は目安(280～300粒)や平年と比べやや多い傾向。(宮城県亶理農業改良普及センター 9月6日付)</p> <p>(美里)穂数及び籾数については、田原の「ひとめぼれ」、鹿島台の「ササニシキ」を除き前年及び平年を上回り、前年より5割弱多いほ場もある。(宮城県美里農業改良普及センター 9月9日付)</p> <p>(栗原)8月4日に出穂期を迎えた北部平坦地帯における中生品種(「ひとめぼれ」等)の刈取適期は9月15日頃から9月22日頃となる見込み。(宮城県栗原農業改良普及センター 9月6日付)</p> <p>(石巻)刈取適期は9月16日前後(出穂期8月3日の場合)。(宮城県石巻農業改良普及センター 9月5日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米^{かみ}の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田	(生育・作柄)	<p>(由利)9月1半旬の強風や局地的強雨により倒伏面積が徐々に拡大している。 天候の回復により登熟はやや遅れているが、順調に進んでいる。(秋田県 9月9日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや不良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米^{かみ}の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	(生育・作柄)	<p>【登熟状況】 ・9月6日現在の登熟歩合は、県内平坦部「はえぬぎ」の平均で71.7%(平年差-6.3%) 「雪若丸」70.6%(前年差-9.8%)で、平年並みの速度に近づいている。(山形県 9月9日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米^{かみ}の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「はえぬぎ」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育・作柄)	<p>(農業総合センターの作柄解析試験) ・出穂期が本郡(郡山市)で平年より2日から4日遅く、会津地域研究所(会津坂下町)で平年より3日遅く、浜地域研究所(相馬市)で平年より1日から2日遅くなっている。(福島県 9月9日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米^{かみ}の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつぶ」が増加していたが、飼料米への転換が増加していることから比率はやや低下している。</p>
茨城	(生育・作柄)	<p>【8月26日現在、龍ヶ崎市(4月27日移植)】 ・「あきたこまち」及び「ふくまる SL」について、倒伏程度が大きかったことから、登熟期間は「あきたこまち」で平年より3日長く、「ふくまる SL」で平年より2日長かった。このため、成熟期は「あきたこまち」で平年より3日遅い8月22日、「ふくまる SL」で3日遅い8月26日だった。 ・今後気温が平年並に推移した場合、登熟積算気温に基づく「コシヒカリ」の成熟期は、平年より3日早い8月29日と予測される。 ・今後気温が平年並に推移した場合、登熟積算気温に基づく成熟期は「コシヒカリ」では平年より3日早い9月4日と予測される。 (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 9月1日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁東京管区気象台)</p> <p>向こう1か月、紋枯病の発生が「多い」と予想される。 (農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成で、近年多種多様な収米への作付け移行が進んでいる。</p>

<p>栃 木</p>	<p>(生育・作柄)</p> <p>・早期栽培「コシヒカリ」 ・出穂期の平均は7月27日と平年より2日、前年より1日早かった。 (普通播種栽培)「とちきの星」 ・8月3日の調査時の草丈は前年比 104~111%と高かった。茎数は 78~84%と少なく、葉色(葉色板)は+0.2~+1.5 濃く、生育診断値(葉色×茎数)は 90~119%だった。(栃木県農政部長経営技術課 8月25日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日~10月9日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月~11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>向こう1か月、秋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちきの星」が増加傾向にある。</p>
<p>千 葉</p>	<p>(作柄)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日~10月9日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月~11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。令和2年産から新品种「粒すけ」の本格栽培が開始</p>
<p>新 潟</p>	<p>(生育・作柄)</p> <p>【9月8日現在】</p> <p>「コシヒカリ」の収穫適期は、県平均で平年並の9月13日頃(出穂後の積算気温 1,000℃)の見込みだが、地域やほ場間で登熟の進みに差が生じている状況。「コシヒカリ」の生育調査ほにおける収穫前品質調査(出穂後の積算気温800℃)では、一部地域の調査ほ場において、乳白粒や基部未熟粒の発生が多くなっており、登熟初期の高温の影響が認められる。</p> <p>「新之助」の収穫適期は、県平均で平年より1日遅い9月24日頃(出穂後の積算気温 1,050℃)の見込みだが、積算気温に対する籾の黄化速度はやや遅めで、登熟が緩慢な状況。 (新潟県 9月8日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日~10月9日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月~11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成となっており、「コシヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきん子舞」「つきあかり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、県では新品种「新之助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。</p>
<p>富 山</p>	<p>(作柄)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日~10月9日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月~11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温登熟でも品質が安定している「てんこもり」及び「てんたくく」県のトップブランドに位置づけている「富山高」が増加傾向にある。</p>
<p>石 川</p>	<p>(作柄)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日~10月9日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月~11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル品種の「ひやくまん粒」が増加傾向にある。</p>
<p>福 井</p>	<p>(生育・作柄)</p> <p>・適期移植コシヒカリは、収穫適期になっている。(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 9月7日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや良。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日~10月9日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月~11月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米がみの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお、新品种である「いちぼすけ」が増加傾向にある。</p>
<p>長 野</p>	<p>(作柄)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日~10月9日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月~11月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁東京管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県のオリジナル品種「風さやか」の導入を推進している。</p>
<p>滋 賀</p>	<p>(作柄)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月3日~10月2日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月~11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁大阪管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「日本晴」及び「みずかがみ」を中心とする品種構成である。近年、高温登熟性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。</p>

兵庫	<p>【9月2日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県北部の極早生品種「コシヒカリ」の出穂期は平年(7月29日)より2日早く、草丈は平年並、茎数はやや多い。成熟期は平年よりやや早いと考えられる。 ・県南部の極早生品種「キヌヒカリ」「どんとこい」は平年より1日早く、中生品種の「ヒノヒカリ」、晩生品種の「山田錦」も平年よりやや早くなる見込み。草丈は平年に比べ、「キヌヒカリ」「どんとこい」でやや低く、「ヒノヒカリ」「きぬむすめ」でやや長く、「山田錦」でやや長い。茎数は「キヌヒカリ」「どんとこい」で平年並～やや少なくなった。「山田錦」では平年よりも多く、「ヒノヒカリ」「きぬむすめ」は平年よりやや少ない。成熟期はやや早まると思われる。(兵庫県 9月5日付) <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月3日～10月2日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪管区気象台)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。</p>
岡山	<p>・イネ(晩生種)の生育は平年並である。(岡山県病害虫防除所 8月30日付)</p> <p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p> <p>(生育・作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が^り、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」、「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。</p>
広島	<p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p> <p>(作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が^り、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
愛媛	<p>・作柄の良否(8月15日現在) やや良。 (農林水産省 8月31日付)</p> <p>(作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、トビイロウンカ、斑点米が^りの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「こまざる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「こまざる」への品種変更が定着してきている。</p>
高知	<p>(普通期稲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培初期の水不足や低温の影響による生育遅延は、最近の高温の影響により回復傾向である。まとまった雨が少なく、水不足による雑草の発生が多い状態は解消されていないが、順調にいけば平年並の生育となりそうである(8月月報)(高知県病害虫防除所 9月2日付) <p>・作柄の良否(普通栽培) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p> <p>(生育・作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月、トビイロウンカ、斑点米が^りの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>
福岡	<p>【8月19日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期水稲(「夢つくし」、「コシヒカリ」) ・4月中下旬の「夢つくし」、「コシヒカリ」の成熟期は平年に比べて早く、収穫は8月8日頃から開始され、8月15日から収穫作業が本格化している。 ・穂数が平年より多く、収量は平年並～やや多いと見込まれるが、登熟期が高温で経過したため、白未熟粒の発生が前年より多い見込み。 ・また、イネカメムシによる吸汁害の発生も一部で見られ、収量及び品質の低下が懸念される。 <p>【普通期水稲(「夢つくし」、「元気つくし」、「ヒノヒカリ」など)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂期は、6月10日種「夢つくし」が8月6日、6月中旬種「元気つくし」が8月17日頃で、平年より2日程度早い。 ・トビイロウンカ、コゾメイガの発生は平年より少ないが、葉もちやイネカメムシの発生は一部地域でやや多い。 ・「夢つくし」の成熟期は、平年よりやや早くなると予想され、収穫は9月中旬が最盛期となる見込み。(福岡県農林業総合試験場 8月24日付) <p>・作柄の良否(8月15日現在) やや不良。 (農林水産省 8月31日付)</p> <p>(生育・作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が^り、紋枯病の発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「元気つくし」が増加傾向となっている。なお、県では今後新種「夢つくし」の拡大を推奨している。</p>
熊本	<p>・作柄の良否(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p> <p>(作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁福岡管区気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が^りの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。</p>
宮崎	<p>【生育状況(8月上・中旬)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲は幼穂伸長期～穂ばらみ期(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 8月25日付) <p>・作柄の良否(普通栽培)(8月15日現在) やや不良。 (農林水産省 8月31日付)</p> <p>(生育・作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が^りの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「み系358」への作付誘導が進められている。</p>
鹿児島	<p>・作柄の良否(普通栽培)(8月15日現在) 平年並。 (農林水産省 8月31日付)</p> <p>(作柄)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 9月10日～10月9日】 九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 9月～11月】 九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>向こう1か月、斑点米が^りの発生が「多い」と予想される。(農林水産省 9月7日付)</p>	<p>・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。</p>

注1：国及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：令和4年9月12日 14時時点での取り纏め。
注3：更新箇所は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 9月1日現在(北海道農政部 9月6日)、
農作物生育状況 9月1日現在(北海道空知総合振興局 9月6日)、
農作物の生育状況 9月1日現在(北海道石狩振興局 9月6日)、
農作物の生育状況 9月1日現在(北海道後志総合振興局 9月6日)、
農作物の生育状況 9月1日現在(北海道胆振総合振興局 9月6日)、
農作物の生育状況 9月1日現在(北海道日高振興局 9月6日)、
農作物の生育状況 9月1日現在(北海道渡島総合振興局 9月6日)、
農作物の生育状況 9月1日現在(北海道檜山振興局 9月6日)、
農作物の生育状況 9月1日現在(北海道上川総合振興局 9月6日)、
農作物生育状況調査の概要(令和4年9月1日現在)(北海道留萌振興局 9月6日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 9月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 9月6日)、
水稲作況調査(8月31日現在の登熟状況)(地独)青森県産業技術センター・農林総合研究所 9月1日)、
農作物技術情報第6号水稲(岩手県 8月25日)、
令和4年産美里地区の水稲情報第8号(宮城県美里農業改良普及センター 9月9日)、
稲作情報No.7(宮城県石巻農業改良普及センター 9月5日)、
栗原の稲作通信令和4年第7号(宮城県栗原農業改良普及センター 9月6日)、
令和4年稲作情報第8号(宮城県亶理農業改良普及センター 9月6日)、
こまちチャンネル<http://www.e-komachi.jp/>(9月12日閲覧)、
米づくり技術情報No.16(山形県県産ブランド推進課 9月9日)、
主要な農作物の生育情報令和4年度第6号(福島県農林水産部 9月9日)、
農研速報(茨城県農業総合センター・農業研究所 9月1日)、
令和4(2022)年度水稲生育診断予測事業速報No.7(栃木県 8月25日)、
水稲の生育と今後の管理対策(第6号)(新潟県 9月8日)、
稲作情報No.17(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 9月7日)、
令和4年度兵庫県農業気象技術情報第5号(9月情報)(兵庫県 9月5日)、
令和4年度病害虫発生予報第6号(岡山県 8月30日)、
病害虫発生予報情報について(高知県病害虫防除所 9月2日)、
福岡県の主な農産物の生産状況令和4年8月19日現在(専技情報より抜粋)(福岡県農林業総合試験場 8月24日)、
令和4年度病害虫発生予報第5号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 8月25日)、

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日
北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁大阪管区気象台)、
中国地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁広島地方気象台)、四国地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁高松地方気象台)、
九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(9月8日気象庁鹿児島地方気象台)、

北海道地方方向こう3か月の天候の見通し(8月23日気象庁札幌管区気象台)、東北地方方向こう3か月の天候の見通し(8月23日気象庁仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう3か月の天候の見通し(8月2
北陸地方方向こう3か月の天候の見通し(8月23日気象庁新潟地方気象台)、近畿地方方向こう3か月の天候の見通し(8月23日気象庁大阪管区気象台)、
中国地方方向こう3か月の天候の見通し(8月23日気象庁広島地方気象台)、四国地方方向こう3か月の天候の見通し(8月23日気象庁高松地方気象台)、
九州北部地方方向こう3か月の天候の見通し(8月23日気象庁福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方方向こう3か月の天候の見通し(8月23日気象庁鹿児島地方気象台)、

令和4年産水稲の8月15日現在における作柄概況(農林水産省 8月31日)、
令和4年度病害虫発生予報第7号(農林水産省 9月7日)、
令和4年産水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月16日)

気象概況

北日本太平洋側 7日ごとの値

令和4年 月/日	平均気温 平年差(°C)	降水量 平年比(%)	日照時間 平年比(%)
8/1~8/7	▲ 0.7	222	62
8/2~8/8	▲ 0.3	197	64
8/3~8/9	0.1	172	64
8/4~8/10	0.5	123	68
8/5~8/11	1.1	145	72
8/6~8/12	1.7	183	72
8/7~8/13	2.3	197	72
8/8~8/14	2.5	213	79
8/9~8/15	2.2	202	82
8/10~8/16	1.9	255	77
8/11~8/17	1.8	231	102
8/12~8/18	1.3	258	94
8/13~8/19	1.0	226	105
8/14~8/20	0.8	215	97
8/15~8/21	0.9	194	117
8/16~8/22	0.9	166	134
8/17~8/23	1.0	87	136
8/18~8/24	1.1	84	132
8/19~8/25	1.1	25	147
8/20~8/26	1.0	20	124
8/21~8/27	1.0	45	120
8/22~8/28	0.6	79	89
8/23~8/29	0.3	78	87
8/24~8/30	▲ 0.3	88	81
8/25~8/31	▲ 0.6	166	56
8/26~9/1	▲ 0.4	178	43
8/27~9/2	▲ 0.3	177	56
8/28~9/3	▲ 0.5	150	61
8/29~9/4	▲ 0.4	127	75
8/30~9/5	▲ 0.1	127	52
8/31~9/6	0.4	113	64
9/1~9/7	1.0	42	85
9/2~9/8	0.9	34	100
9/3~9/9	1.0	31	110
9/4~9/10	1.1	26	135
9/5~9/11	1.2	17	147

北日本日本海側 7日ごとの値

令和4年 月/日	平均気温 平年差(°C)	降水量 平年比(%)	日照時間 平年比(%)
8/1~8/7	0.1	174	92
8/2~8/8	0.3	196	93
8/3~8/9	0.6	273	95
8/4~8/10	0.8	230	95
8/5~8/11	1.1	259	95
8/6~8/12	1.5	295	86
8/7~8/13	1.8	312	81
8/8~8/14	1.9	327	82
8/9~8/15	1.5	282	83
8/10~8/16	1.2	304	77
8/11~8/17	1.1	286	94
8/12~8/18	0.6	286	80
8/13~8/19	0.3	249	92
8/14~8/20	0.1	251	82
8/15~8/21	0.1	225	96
8/16~8/22	0.3	180	114
8/17~8/23	0.5	78	118
8/18~8/24	0.4	76	112
8/19~8/25	0.4	40	128
8/20~8/26	0.4	43	110
8/21~8/27	0.5	40	111
8/22~8/28	0.2	48	89
8/23~8/29	▲ 0.1	48	81
8/24~8/30	▲ 0.6	40	80
8/25~8/31	▲ 0.6	99	64
8/26~9/1	▲ 0.4	117	48
8/27~9/2	▲ 0.6	116	54
8/28~9/3	▲ 0.9	103	65
8/29~9/4	▲ 0.8	107	84
8/30~9/5	▲ 0.4	110	76
8/31~9/6	0.3	104	93
9/1~9/7	0.8	48	112
9/2~9/8	0.9	35	130
9/3~9/9	1.1	34	141
9/4~9/10	1.4	29	159
9/5~9/11	1.5	17	164

東日本日本海側 7日ごとの値

令和4年 月/日	平均気温 平年差(°C)	降水量 平年比(%)	日照時間 平年比(%)
8/1~8/7	1.1	296	105
8/2~8/8	1.1	287	100
8/3~8/9	1.1	276	96
8/4~8/10	1.3	228	97
8/5~8/11	2.0	44	109
8/6~8/12	2.5	7	99
8/7~8/13	2.5	76	91
8/8~8/14	2.2	158	76
8/9~8/15	1.9	180	63
8/10~8/16	1.5	249	51
8/11~8/17	0.9	266	46
8/12~8/18	0.2	358	41
8/13~8/19	▲ 0.3	351	57
8/14~8/20	▲ 0.7	436	45
8/15~8/21	▲ 0.8	376	55
8/16~8/22	▲ 0.7	352	74
8/17~8/23	▲ 0.4	283	82
8/18~8/24	▲ 0.2	266	86
8/19~8/25	▲ 0.3	198	78
8/20~8/26	▲ 0.4	208	59
8/21~8/27	▲ 0.3	71	63
8/22~8/28	▲ 0.6	67	64
8/23~8/29	▲ 1.0	66	62
8/24~8/30	▲ 1.5	99	56
8/25~8/31	▲ 1.0	121	66
8/26~9/1	▲ 0.7	207	66
8/27~9/2	▲ 0.6	198	64
8/28~9/3	▲ 0.6	208	65
8/29~9/4	▲ 0.1	190	78
8/30~9/5	0.7	187	81
8/31~9/6	1.4	167	102
9/1~9/7	1.0	143	92
9/2~9/8	1.1	42	95
9/3~9/9	1.2	46	95
9/4~9/10	1.5	26	110
9/5~9/11	1.6	25	113

注)気象情報などに用いる地域名(台風情報は除く)

- ・北日本太平洋側: 北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側。
- ・北日本日本海側: 北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側。
- ・東日本日本海側: 北陸地方。